

地名研究会報

第 113 号

平成 22 年 8 月 1 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 113 回例会 平成 22 年 6 月 6 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室
〔出会者〕 青柳俊二・今村誠一・入来院重朝・入来院貞子・内山憲一・川野雄一・
築地成郎・寺園貞夫・中島忠紀・永坂芳彦・浜田良知・肥後吉郎・
肱岡修一郎・平田信芳・山下東洋・米原正晃 (計 16 名)
- II. 大日本地名辞書読会 P. 604~P. 605 高城郡・薩摩郡・平佐郷・碓山城跡
〔話題となった地名および事項〕 平佐城攻防戦、高城郡と薩摩郡、碓山城跡、
シラスと溶結凝灰岩、入来・樋脇・市比野、平佐・碓山・永利・田尻、
向田・志那尾神社・高江、古代駅路と中世近世の街道、日置郷・百次、
渋谷一族、宇土・合志、唐坊 (当房)、風呂、鹿児島県の温泉、
入来の薪能

平佐城攻防戦

肱岡 秀吉の島津征討の時、平佐城をめぐる攻防があったとのことですが。

平田 平佐城を守ったのは、平佐地頭の桂神祇忠昉が率いる三百名と、入来院氏の援軍若干名でした。豊臣勢は小西行長・脇坂安治・九鬼義隆らが率いる水軍二千。水軍は荒くれ共の海賊衆でしたが、容易に平佐城を落とせなかった攻防戦でした。川内の人々は桂神祇忠昉が守った平佐城は、四百年経った今日でも、秀吉勢の攻撃に屈しなかったと誇りに思っています。主君島津義久の命令で開城を余儀なくされたのです。桂忠昉は、その後、平佐から肝属の方、高山地頭に配置転換されています。平佐城防衛の功績を認められたのでしょうか。

川野 平佐城跡とは、今で云えば、どこになるのですか？

平田 J R 川内駅のすぐ北側に平佐小学校がある。その裏山。シラス台地の山が平佐城跡になる。

川野 それを豊臣勢が攻めきらなかったのですか。

平田 前に田圃があるから。

川野 あゝ、馬が走れない。

平田 馬は走れないし、城の周囲は水浸しの湿地帯だから、簡単には攻め落とせなかった。小西行長とか脇坂とか、いわゆる水軍の連中に攻めさせたが、攻めあぐねたという。

肱岡 水軍が攻めた？

平田 そうです。大小路の方から見たら、向田は田圃が広がっていたし、伝説では島追舟で田圃の雀を追ったとの話になる。そんな湿地帯だった。

入来院貞 兼喜神社のある所は？

平田 平佐城の裏の方になります。

高城郡と薩摩郡

平田 宇土・飽多・豊木の他に、合志・新多・託万を加えた六郷で構成されたのが高城 (たかき) 郡。避石 (ひられいし・ひらいし) ・幡利 (はり) ・日置の三郷からなる薩摩郡があったのです。避石郷は隈之城に平礼石寺が

存在したことから隈之城・平佐一帯にあった郷（編集時後記：串木野市に平石姓多し）。日置に近い音は樋脇ということで、日置郷は樋脇・入来を含む地域と考えられています。川内川中流域・下流域では右岸にあったのが高城郡、左岸にあったのが薩摩郡とみるのが最も判り易い理解になります。

碓山城跡

入来院貞 碓山城跡は、標注が立っているだけです。

肱岡 ほとんどが岩山で、南北朝時代に南朝方が拠っていた。

平田 碓山城をめぐる南北朝時代の合戦の話はほとんど残っていません。島津国史や西藩野史に記されていることを郷土誌が丸写ししているに過ぎません。

肱岡 碓山の石は汚れをよく落とすので、石鹸の代わりとして使われた。

米原 よく泡が立つので、普通は石鹸の代わりだったのでしょ。

平田 そんな使われ方をしたのですか。

肱岡 そんな用途でどんどん切り取って、岩山はほとんど無くなった。

平田 周囲はほとんど水田でしょう。

肱岡 岩山が残っていただけですが、それを削り取ってしまったのです。

平田 石鹸代わりという利用価値があったのだ。

入来院貞 利用価値というより、もう終わっちゃったのです。

平田 城跡はそのようなことで削り取られてしまった。

寺園 なくなる前に行ったことがあるのです。碓山城跡は、皿山に行く途中にある。

肱岡 この地図では碓山は戦跡城となって

います。

シラスと溶結凝灰岩

寺園 吉田麓の東の方、南側の山の麓に、鍋や釜を磨く粉を採取している所がある。

平田 吉田で磨き粉を採っている？

寺園 それはシラスの下にある岩盤の中間ぐらいの層の成分で、それを採って真っ白な粉にして袋に入れて使っていた。昔は軽石で鍋や釜の底を磨いていたけど、それとどう関係があったのか。現在、蒲生の石が流行しているけど、それはシラスの石鹸とどんなつながりがあるのか。

平田 この前行った吉田の家。いろんな資料が残っていた家。何という家だったっけ。あゝ、そうだ、柏原善助の子孫宅だ。迫田さんだ。

米原 あゝ、あの家。

平田 吉田麓の迫田さん宅には、西郷隆盛が残して行ったという弁当箱とか、顔を洗ったという盥などがある。西郷隆盛が子供たちに黒砂糖を呉れたという家。あの家がシラスの磨き粉を採っているとのことだった。

寺園 下の方の岩盤が溶結凝灰岩で、シラスよりも古い火砕流の堆積です。

平田 シラスというのは今から1万3千年前までに堆積した始良火山の噴出物です。その下に溶結凝灰岩の層がある。鹿児島では俗にいう反田土石（たんたどいし）の層。その下に河頭石（こがしらいし）の層がある。加治木辺りでは白い二瀬戸石（ふたせどいし）と黒い桃木野石（ももきのいし）の層がある。これらの溶結凝灰岩が切石として使われて来た。鹿児島市の上町地区では反田土石が石垣や石橋に使われて来たけど、甲突川流域では小野石が石垣や石橋の材料だった。シラスと溶結凝

灰岩の間に砥石や洗剤として使われる石の層があったのかな。

寺園 シラスや溶結凝灰岩は一度の噴火による堆積ではない。数回の噴火による火砕流の堆積の結果なんです。それよりも古い始良カルデラ火山や池田カルデラ火山による火砕流の堆積もある。霧島火山が始良カルデラ火山の前に何回も噴出しているのです。噴出物は、最初は軽石、それから火山灰、最後に熔岩です。熔岩は液体と同じ。固体でもないし気体でもない。そんな物が混ぜ混ぜになり、火砕流となって下って来る。下の方が薄い場合が溶結凝灰岩は出来ませんが、厚い場合は下の方は熔けて熔岩になる。上の方は固まって溶結凝灰岩になるのです。

始良カルデラ火砕流が最も厚く堆積した一帯が、隼人町日当山から国分の重久一帯。火砕流ごとに種々の名前（学名）が付けられています。

吉田の場合は、下の方の古い層と上の新しい層とが高温で熔けて再度固まった。そんな層があります。シラスが熔けて再度溶結したのは吉田だけだと云われます。

平田 火砕流を判り易く印象付けたのは、雲仙火砕流です。テレビ画面で全国的に報道されたので、印象強く理解されました。鹿児島県で有名なのは、入戸火砕流。国分に入戸（いりと）という処があります。土地の人々が「いいと」というのを、学者が「いと」と理解した。それで入戸火砕流（いとかさいりゅう）と呼ぶようになった。判り易く云えば、シラスの学名が「入戸火砕流」だ、と知っておかれたらと思います。

入来・樋脇・市比野

平田 入来とは、本来は川の水を取り入れ

る施設があった処。川の水の取入口に発達した処が「入来院」になると考えます。

入来院重 清色川の水を取入れる処に発達した集落を中心に「入来院」が成立したと考えられますね。

平田 そうです。

入来院貞 だけど、清色川（入来川）が樋脇に入って市比野川と合流すると、樋脇川と呼ばれています。

平田 鹿児島県庁の役人がそのように名付けたのでしょ。

入来院貞 清色川と呼ばばよいと思うのだけど。

平田 本来樋脇は入来から分村した存在。だから、樋脇川の呼び名は下剋上ですね。そんな名前の付け方は下剋上（笑い）。樋脇の由来、成り立ちを調べたら、入来から分かれたことがはっきりしています。川の呼び名・地名の付け方は、県庁などのお役人の都合・判断で付けられたものが多い。樋脇は水が出て来る山から竹筒で水を引いて来る樋の脇にあった集落に由来する地名でしょうから、読んで字の通りです。

市比野は樺の木の種類：イチヒガシに因む地名。歴史的に有名なのは薩摩国薩摩郡田尻駅と大隅国桑原郡蒲生駅の間が離れ過ぎているので、中間の薩摩郡樺野に駅を設けたとの延暦23年（804年）の記事によってです。

市来も「市（いち）」に由来するとの説の他に、やはり「樺（いちい）の木」に由来するとも云われます。

入来院貞 「一位の木」という説もあります。昔、お公家様たちが手にした笏（しゃく）は、早く一位になるようにとの願いを込めて樺の木で笏を作ったとの説があります。植木

屋さんの話だと、あまり大きくなり木だ
そうです。

脇岡 入来の大字に副田（そえだ）と浦之
名（うらのみょう）があります。山里に浦と
いう地名があるのは？

平田 万葉集では先端・末を「うら」と読
んでいます。先端・隅っこの地域を「うら」
と呼んだのです。

平佐・碓山・永利・田尻

平田 平佐：平（ひら）は山裾の緩傾斜面
を指す。佐は「あんた方どこさ」の「さ」。
単なる地名語尾。碓山は船の碓に用いた石の
産地だった。そこに城を築いたということだ
しょう。

米原 碓山の石は、船の碓に使った？

平田 わりと長い形で採れる石だから船の
碓にしたのかな、と考えた。

米原 川の側だし、便利な処ですよ。

平田 永利（ながとし）という地名は永く利
益があるように願った願望地名でしょう。田
尻は、口から食べて尻から出すとの発想で、
始まりの場所を田口、終りの処を田尻と意識
した呼び名でしょう。川口・川尻も同じ発想
でしょうが、川口と川尻は大抵隣り合ってい
ます。上流の者から見れば川尻、下流の者は
川口と見るのでしょうか。住んでいる処によ
って呼び方が違って来ると思います。名前の付
け方として居住地によって異なって来るのは
当然でしょう。

向田・志那尾神社・高江

平田 隈之城。隈は本来「隅っこ」の意。
向田（むこうだ）は大小路（おおしょうじ）の方
から見て「川向こうの田」。宮里（みやざと）
は新田神社もしくは志那尾神社ゆかりの里。
志那尾（しなお）は「風の神」のことだ、と

川内では云っています。

米原 「風の神様」というのは、他に例が
ない。此処だけです。

平田 高江。入江が高い処にあるはずはな
いので、これは「高家」があったのでしょ
うね。高い家があったり、高い屋根があっ
たりする所は、古代では政治の中心地だっ
たからそういう名前が残ったと考えられます。

入来院貞 「鳥追舟」に関する地名はある
のですか？

平田 はい、残っています。向田を流れる
隈之城川が本流の川内川と合流するちょっと
手前に母合橋（ははあいばし）というの
があります。謡曲「鳥追舟」に出て来る姉
弟の母親は宮里出身で、子供たちは日暮
丘（ひぐらしおか）の方に残されていたの
です。母子が隈之城川を挟んで互いに呼
び合った所に後に橋が架けられて母合橋
の名が付けられます。母合橋を渡って宮
里に行く途中にある神社が志那尾神社で
す。

米原 どの辺にありますか？

平田 新田八幡を視野に置くと、川内川
の左岸になります。

入来院貞 行くとしたら、遠いのですか？

平田 向田から母合橋を渡り、川内川沿
いに行けば、すぐです。わりと近い。

入来院貞 すぐ判りますか？

平田 中越パルプ工場の対岸です。川内
川からわりと近い処にあります。車で行
けば、すぐ目に付きます。

古代の駅路と中世・近世の街道

浜田 昔、駅家があったのは、田尻？

平田 奈良時代から平安時代初めにあ
った田尻駅（延喜式では田後駅）は、ま
だ突き止められていません。明治の頃
に、向田駅と呼

ばれるものがあり、駅馬車が通っていた
のは事実です。鉄道開通以前の街道に
駅馬車と宿場町があったことは確かです。
向田駅の次は串木野駅、その次は市来
駅につながる駅馬車があったことは確
かです。

寺岡 江戸時代の宿次もあったはず・

平田 向田の町は古くからあったの
です。向田町の次は高城麓に付随する町
（野町）があり、馬を乗り継いで行っ
たのです。馬が用意してある処に宿屋
もあり、町もあった。江戸時代の町に
ついて案外知られていないけど歴史的
に考えると古代・中世の道、近世の
駅なども連続性が考えられるのかも知
れない。

寺岡 鉄道が敷設されるのは、明治中
程ですか？

平田 明治三十年代～四十年代です。
近世の駅、明治の街道もあったはずで
す。馬を乗り継ぐ駅があり町もあった
から、鉄道も敷設された。

浜田 駅があれば町も出来る。

平田 そうです。近世の道・駅。町と無
関係に鉄道は敷設されるものではない。
歴史の流れからは近世の街道であって
も、政治の中心地がどこであったか
によって道筋は決まって来ます。近
世以降、鹿児島が島津氏の居城とな
ったから、それと結ぶ道が近世の街
道になるわけです。それ以前の中世の
街道はどこだったのか。

浜田 それは判っていない。

平田 歴史の連続性ということから
見るとそんなに変わっていないと思
うのです。中世の街道というのは城
と城を結んで行ったでしょうから
ね。城があった処はどこになるか
という、近世では「麓」になるの
です。そこに

地頭仮屋という政治の拠点が置か
れます。麓を行政の拠点とした仕組
みは外城制度と呼ばれるものです。

私は歴史を深刻に考えないのです。
近世は中世を引き継いでいるし、中
世は古代の制度を引き継いでいると
考えられるからです。政治の中心地
が大きく変れば体制も変わります。
古代では薩摩国の中心地は川内、大
隅国の中心地は国分だった。ところ
が島津氏が戦国大名・封建大名とし
て成長して鹿児島が大隅・薩摩の
中心地となり、国分も川内も鹿児
島と結ばれるようになります。そう
すると、川内と国分を結んでいた道
は廃れます。そのために中世と近
世の道は大きく違って来ます。

浜田 西南戦争の時、太平橋を焼
いたという話がある。

平田 それは『征西戦記稿』などの
官軍側の記録を見ると、どこの町
に火を付けたかが出て来るとし
ょう。また逆に薩軍側の記録にも
出て来るとしよ。

浜田 古代でも隼人の反乱の記録
がある。

平田 古代では古事記とか日本書
紀に書いてある以上の話は判ら
ない。

浜田 六国史に出て来るのではない
か？

平田 六国史に史料を求めるのは
期待出来ないでしょう。現在知ら
れている大隅・薩摩の古代史は、
すべて六国史を原典にしています。
今までの歴史家がすべて拾いだ
していません。

日置郷・百次

脇岡 和名抄に薩摩郡日置郷とい
うものが出て来ますが、日置郡日
置郷というものは出て来ないの
ですか？

平田 日置郡は出て来ますが、
その中に日置郷は出て来ません。
和名抄では日置郷は日

置郡所属の郷としては出て来ません。

米原 日置郡日置郷は出て来ない？

平田 薩摩郡の中に出て来るので、樋脇と結び付ける以外にないと考えられて来たのです。普通、日置郡があれば、日置郷もその中に所属する郷として出て来るのが自然です。和名抄の頃に書き違えた可能性もあります。

寺園 和名抄とか図田帳、それを見るとすると、どんな本がありますか？

平田 吉川弘文館が出した『和名類聚抄郷名考証』があります。和名抄全文（1巻～20巻および索引）は風間書房が出した『倭名類聚抄』で見ることが出来ます。鹿児島県の主だった郷土誌や『鹿児島市史』などに建久図田帳の全文が掲載されています。

寺園 ずーっと以前から気になっていたのですが、伊集院町の郷土史を書いた人が松元町郷土史も書いておられます。その人は日置郷は多分、日置郡の中にあっただろうと書いています。和名抄には載っていないのだけど、そのように書いているのです。だから、いつか和名抄を見てみたいな、と思っているのです。

平田 建久図田帳は鹿児島県を扱った歴史書には大抵全文引用されています。そうでなきゃ、歴史書として腰に引けたものになりませんから。

川野 百次という地名は、どのように考えるのですか？

平田 それは判らん。馬糞が百次に化けた、訛ったのではないかという説はある。古代の駅路が櫛野（市比野）から百次に出て来たとの説になり、また田尻から櫛野に行くのにどの道を通ったか、ということにつながる。百次の方を通ったら、そこで馬を糞いだ

と解釈するのだけど、そこに田尻駅があったことにもなるから、それはおかしいと思う。

「百」の付く地名に、大隅の百引（もびき）がある。それと薩摩の百次。そんなに簡単に判る地名とは思いません。地名がどうして出来たか。容易に判る問題でない。すべてを解釈しようとすれば、パンクしてしまう。「判らん」で、いいよ。判らないものは、判らない。そのうち、判るかもしれない。

寺園 百引は「もびき」と云い、「ももひき」とは云わない。百次は「ももつぎ」と読む。

入来院重 土地の人は「もうつぎ」と云ってるようです。

寺園 「もうつぎ」ですか。

（編集時後記：『角川日本地名大辞典』『鹿児島県の地名』ともに「ももつぎ」とルビを振っている）。

平田 百・千・万などの付く地名や名字があるのですが、これらは「沢山」を意味するもので、百・千・万にこだわる必要はないと思います。万引という表現もあるし（笑い）多くの物がつながっているとか、多くの物を引き寄せるとか、そういうことをした人たちを「百引」と表現するのだろうけど、百次は何だろう。沢山のものをつないで行くということですかね。川内では郷土史家たちが、百次を馬がくたばったので馬を乗り継いだと解釈しただけのこと。そういう解釈をした人たちがいるということ。百・千・万を沢山のものの表現の一つと考えたら、そんなに深刻にならなくてもよい（笑い）。

寺園 老・拾・百という数字と千万ドルというのは、だいぶ意味が違うと思うのだけど

米原 その間々に「嘘八百」なんてのも入

って来る（笑い）。

渋谷一族

入来院貞 入来院氏は渋谷氏の一族です。渋谷一族が入り込んで来た地域：川内川中流域は、それぞれ道がつながっていると思います。

平田 渋谷一族と島津氏の争いは、交通路を支配することからなっていたと思います。渋谷五族のうち、高城氏・東郷氏・入来院氏・祁答院氏は結束しますが、鶴田氏は島津氏と結んで敗れ、鶴田を去ります。

入来院貞 その後、入来院氏は島津氏と仲直りしますが、高城氏・東郷氏・祁答院氏はその根拠地の高城・東郷・祁答院から移されてしまいます。

平田 入来院氏と島津氏の争いは、百次・永利で合戦が繰り返されたのです。

宇土・合志

米原 宇土郷というのは、今でも小字に宇土・宇都というのが残っているのですか？

平田 宇都という地名は多いのです。

米原 多いでしょう。

平田 どんな処に多いかというと、「迫」の奥が「宇都」です。「迫」が狭くなって、「宇都」になるのです。鹿児島県に多い地名です。

寺園 地形的に見て多い。此処に書いてある「宇土」は肥後国からの移民によるもの。

平田 そうです。鹿児島県は宇都という地名が多いので、移民による宇土郷をどこに当てようもないということです。

川野 宇都を超えて行く処に、「宇都川内（うとんこつ）」と呼ぶ地名がある。

平田 宇土郷の決め手は、宇土郷の中心と思われる所から「宇土」と書いた墨書土器が

出て来ることです。同様に、高城か宮之城辺りで「鬱木」と書いた墨書土器が出て来れば決め手になる。まだ決め手になるものがどこからも出土していないのです。

米原 前回出て来た合志は？

平田 あれは神子（こうし）が最も近い音だから。他に比定するような地名がないから鶴田の神子が合志郷に比定されているのです

米原 宇都はありすぎるから。

平田 どれを選びようもない。

川野 託万は、中郷に宅万寺跡というのが

ある。

平田 託万郷の場合は、宅万寺跡という手掛かりがある。

寺園 肥後の合志（こうし）。どういう呼び方が正しいのか判りませんが、現在は土地の人たちは「こうし」と云ってるようです。

平田 「かわし」とは云わない。

寺園 「こうし」と云ったような気がしませんけどね。

米原 西合志は「にしこうし」と云います。

寺園 山城跡を見に行った時、「こうし」と聞きました。

平田 肥後では「かわし」とは云わない。「こうし」と云う。

寺園 はい、云いません。

平田 はい、判りました。

（編集時後記：角川日本地名大辞典43、熊本県には「こうし」「ごうし」二通りの読みがある）。

唐坊（当房）

米原 八重山は「はえやま」と呼んだことに関連して、昔は生山（はえやま）と書いていたのですか？

平田 明治10年の地図に、官軍側が生山と書いたのです。前回説明した通り鹿児島語で「はえ」は「開墾する」という意味だった。

肱岡 川内の五代の河口に「当房」とあります。当房というのは、昔中国との交易があった頃、中国の商館などが集まった所を「唐坊」と呼んだことに関係するのでは？

平田 唐人が住んでいた集落を唐坊と呼んだ。それが当房に化けているのです。唐坊は長崎あたりにあってよい地名ですね。他の処にもあるわけですから。

風口（かざぐち）

寺園 風の神を祀った神社は？

平田 志那尾神社。

寺園 川内高校のちょっと北側にある風の付く地名。

平田 あゝ、風口という地名があります。

寺園 それとは関係ないでしょう。

平田 志那尾神社と風口は離れている。川内高校裏側の台地が薩摩国府だったのです。言うなれば古代都市の跡になります。風口は薩摩国府城の西側で、そこから涼しい西風が吹き込む処だった。それで風口と呼ばれたと考えます。

？ どの辺になりますか？

平田 川内高校は六町四方の薩摩国府跡の西南隅で、東西3町・南北1町の敷地を占めています。川内高校から2町（約二百メートル）北側にある上小鶴病院の裏側一帯が風口。別の言い方をすると、六町四方の薩摩国府西側の東西道路入口が風口になります。

入来院貞 『永利郷土史』というのは？

平田 川内の図書館に当然あるでしょう。県立図書館にもあります。

鹿児島県の温泉

平田 今、鹿児島県の温泉で人が集まる所はどこですか？霧島だけですか？湯之元には行かないですね。

寺園 指宿がある。

平田 あゝ、指宿と霧島だけか。

入来院重 あちこちに小さな温泉はありますが、細々とやっているだけで、ほとんど開発しませんからね。

平田 鹿児島県は温泉が多い。大抵の所にあります。

米原 指宿は集落全体で温泉を維持している所があり、すべての家に温泉が引いてある

平田 町中あげて温泉を持っている？

米原 指宿は大きな温泉を中心とした組合があるようです。

寺園 昔は農家が田植や稲刈などの農作業を終えると、温泉に湯治に出掛けるものだった。今でもあるのだけど少なくなっている。

浜田 農家の人たちが米を持って湯治に行っていた。

米原 大隅の人たちは田植を終えると船で鰻温泉に出掛けていた。今は集落の慰安旅行という形でバスを借り切って出掛ける休養の形になった。

浜田 今は話し合って指宿や霧島に来る。

米原 昔は湯治に出掛ける決まった温泉があった。大隅半島の人たちは湯治に出掛けるのは親代々からの温泉だったという温泉に出掛ける。他の温泉には行かない。

入来の新能

入来院貞 8月28日（土）、入来で薪能をやります。来て頂きたいと思います。往復のバスを準備します。是非申し込んで下さい。

平田 次回の例会は8月1日（日）です。

地名研究会報

第 114 号

平成 22 年 12 月 5 日

鹿児島地名研究会

- I. 第 114 回例会 平成 22 年 8 月 1 日 (日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出会者) 青柳俊二、今村誠一、入来院重朝・入来院貞子、上野堯史、内山憲一、
川野雄一、中島忠紀、肱岡修一郎、平田信芳、松浪由安、山下東洋
(計 12 名)

- II. 大日本地名辞書読会 p. 606~p. 607、久見崎、避石郷、幡利郷、甌島、日置郡、
合良郷、冠岳

[話題になった地名および事項] 久見崎、避石郷、寧一山、元寇、甌島、大岳・敷潮岳、
渤海と新羅、南満洲の現状、チャイニーズパワー、商と工、『中国
共産党を作った 13 人』、十年之戦：西南戦争、二十三人の視察団

久見崎

平田 久見崎は浜グミ：食べる茱萸がいっぱい生えている処です。そこに孝女福依売がいたという有名な話があります。その頃、孝女などを全国的に表彰しています。表彰では従五位相当の待遇を与えています。従五位というと、佐官級。将校でいうと大佐・中佐・少佐。金銭も与えますし物も与えます。人々は手本にせよということで、ただ単に国が褒めたということではないのです。

入来院貞 孝子・孝女の話というのは他にもありますか？

平田 『続日本紀』を読めば、他にも出て来ます。

入来院貞 孝女白菊というのが講談社の絵本にあったようですけど。

平田 白菊は肥後の人ですね。子供が見る講談社の絵本にあったのです。そういうのを知っているのは相当な年令です (笑い)。

避石郷

平田 中世の隈之城に平礼石寺という寺があったので、避石は「ひられいし」と読むの

だろうと理解されています。平たく割れた石が「ひられいし」：平たい石で、それを寄せ集めた構造物が地下式板石積石室だろう、と思います。川内川流域に特徴的にみられる古墳形態です。この地域に平石という地名があればいいのです、平石という地名は残っていません。しかし隈之城から串木野にかけて、平石という名字が多いのです。地名としては「ひられいし」よりも「ひらいし」の方が素直だなと思います。そういうことで避石郷は隈之城から串木野にかけての郷だろう、と考えます。

江戸時代、串木野郷は日置郡所属でしたが古くは薩摩郡所属でした。そうすると幡利郷というのは入来辺りに求めなきやなくなります。入来には「ハイ」と呼ぶ所は多いのですか。

入来院貞 ○○原？

寧一山

平田 606^{ペー}に寧一山 (1247~1317) という人物が出て来ます。世祖フビライ汗の命令で日本に使いに来たのですが、字はうまい

し学識はあるし、執権北条貞時とか後宇多法皇などにすっかり気に入られてしまって、貴族たちからは慕われて終に日本に住みついてしまいます。元の使いで来て日本の様子を探って日本を説得するつもりで来たのでしょうか、日本の貴族たちには慕われて生涯を日本で終わった坊さん。ちょっと変わり種です。日本に惚れたのでしょうかね。

元寇

平田 二度の元寇の後、第三回の元寇もあり得たわけです。フビライは二度失敗していますが、三度目の遠征の準備を命じています。そういう情報は日本にも入っていましたから日本の方はびくびくしていたのです。占ト師たちは星の光とか星の位置によって心配していたのです。例えば1333年、鎌倉幕府が減びる年ですが、彗星が現れたことで日本中は大騒ぎになります。敵国降伏を祈願せよとの命令が出ます。

日本では文永・弘安の役と軽く云っていますが、相当怖られたのです。入来院氏は元寇の時、一族がだいぶ戦死した、と。入来の人たちは節目の年になると博多の海岸に行って先祖を弔っているとの話を聞きました。

入来院貞 ……聞き取れず。

平田 元寇の土塁を築いた記録が残っているのは大隅国。〇〇村はどれだけの長さを築け、と。鹿児島県は良い史料を残しています

入来院貞 弘安之駅の褒美として筑前国の方に所領をもらっているのですね、そういう史料が残っています。

平田 私が補足することは以上です。他にありませんか。

入来院貞 寧一山は鎌倉にいたのですか？

平田 夢窓疎石とか虎関師錬など有名な禅

僧がいますが、皆、寧一山の弟子でした。寧一山は最後は京都南禅寺の住職を務めていますから、最後は京都に住んでいます。

甌島

平田 甌島の地形図は2万5千分1図5枚5万分1図2枚に落ち着きます。上甌島・下甌島に分けて眺められる5万分1図が利用するには便利です。両者の境目になる中甌にバケツを大きくした形の岩があります。バケツ状の形が「甌」とよばれるもので、昔から村人たちは甌大明神として拝んで来ました。それが甌島の名前の由来です。

本土から離れていますから遣唐使船が流れ着いた所でもありますし、中国の海賊とか朝鮮の海賊もやって来た所だったでしょう。

入来院貞 人口は多くはないでしょう。

平田 現在のものは調べて来ませんでしたから細かい数値は知りません。漁業で暮らしています。

入来院貞 1万5千？

平田 薩摩川内市に合併したのは何故なのか。意味が判りません。可哀そうだなと思ったりします。

入来院貞 島である為、みじめですよ。高校がないので。

平田 私は市来農芸・川内高校で勤めました。どちらも寄宿舎があり、甌島の子が沢山来るのです。

甌島や海上からの薩摩や九州の眺めは綺麗です。例えば海上からの原子力発電所・火力発電所などの眺めはその一例になりますが、今まで新聞社・テレビ局が取り上げたことがありません。晴れた日に行くと、出水の矢岳が端っこの方に見えます。そこから西北の方向、だいぶ離れたところに平ぺったい餅みた

いな島影が続きます。地図をみたら長崎県の五島以外に考えられないのです。

甌島航路の最初の港は「里」です。「里」のつく地名は鹿児島県では由緒の古い所だと考えられます。例えば、大口市里、川内市宮里、市来町大里、東市来町長里、東桜島町古里などです。

甌島の「里」はトンボロ（陸繋島）で東側も西側も丸い玉石の浜が続きます。東側に港があります。甌島航路を簡単に説明します。以前は阿久根と里を結ぶ航路もありましたが今は串木野からだけです。（串木野）→里→江石→中甌→平良→長浜→青瀬→手打。どの港も船の上から楽しく眺められます。残念ながら西海岸に行ったことがありません。先日NHKが瀬々野浦の小中学校を特集番組でやっていました。

入来院貞 地名研究会で甌島に行ったら、どうでしょう。取っておきの場所だと思います。

平田 甌島は良い処ですよ。

？ 手打という地名の由来は？

平田 知りません。何か、手を打ったのでしょうか（笑い）。ちょっと休憩しましょう。後半は自由な質疑応答にします。

大岳・敷潮岳

内山 607^{ペー}上段の真ん中に甌島の高峰大岳とあります。甌島で一番高いのは5万分1図では長浜の上の尾岳だと思うのです。そうした場合、大日本地名辞書に出て来る大岳・敷潮岳が見当たらない。明治になってから地名が変わっている可能性がある。大岳・敷潮岳が尾岳・青潮岳になったのではないか。

平田 甌島で一番高いのが、長浜の上の尾岳。大岳が地図に載っていない。尾岳が604

青潮岳が510m。口岳が487m。なるほど。

しかし名前を付ける場合、地形を測量した人たちが村人に聞いて、さらに村役場で確かめてから付けたらうからね。また吉田東伍が『大日本地名辞書』の執筆に当たって甌島を書く時に資料として何を使ったか。それが判っていない。恐らく現地には行ってないだろう。

内山 尾岳は高いから地図では尾岳だけが残った。

平田 あゝなるほど。離島というのは絶海の孤島だから、昔は簡単には行けなかった。海賊たちも簡単に攻めて来ないでしょうし、入って来ない。海賊は海賊たちで島の怖さを知っているから簡単に攻めなかったと思うのです。

武家屋敷は里と手打にあった。甌島の住民は平家の子孫と見てよいでしょう。

渤海と新羅

川野 渤海は信頼の置ける国というのは、どういうことですか。

平田 渤海は10世紀初めに滅びるまで日本に正式の国使を派遣していたから、信頼の置ける国との理解だろう。新羅は小さな国だけど、7世紀後半には朝鮮半島を統一します。その統一過程で、日本は唐と新羅の連合軍に白村江の戦いで敗れて追われます。そういう恨みがあるから、日本としては新羅は許せないという気持ちがある。それを引き継いでいると思います。

川野 渤海とは良い関係だったのでは。

平田 渤海とは仲良くしているけど、新羅という国はなまいきで許せないとの見方で接しているのです。それ以前は新羅は日本にも好意的であった筈です。新羅が日本を追い出

し朝鮮半島を統一する過程で、だいぶ傲慢になって来たとの見方をするのです。それ以前は国使を派遣していたのにとの見方があるわけだね。朝鮮という国との交際は、歴史が長く難しいところがある。

川野 北朝鮮まで勢力を広げていた？

平田 北朝鮮まで勢力を広めていたわけではない。渤海は満洲の方だからね。

入来院貞 渤海という海は青島の北の方にあるのですよ。渤海という国が起こったのは唐の時代、高句麗の後を継いだのだから。

平田 高句麗の遺民が逃れて行って渤海を建てたということになっているのだけど、それは渤海国一家のことであって、向こうにはおとなしい満洲族がいたのです。

入来院貞 渤海が甌島に攻めて来たのじゃないでしょうね。

平田 渤海と名乗っているけど、新羅の連中だと見ているわけだから。渤海から日本海を渡って着く所は敦賀です。

入来院貞 新羅が甌島を目的としたとは思わないけど。

平田 渤海の船が、甌島に流れ着いたのであって。

入来院貞 新羅の船も？

平田 新羅の船は流れ着かないでしょうね

入来院貞 流れ着かないのでしょうか？

平田 その頃、海上活動で一番派手に動き廻っていたのは新羅の船でしょうね。第何回遣唐使だったか記憶していませんが、船がボロになったとの理由で、新羅の船で帰国しています。新羅の船がすぐれていたのです。

南満洲の現状

青柳 606^へ-ジ^シ中段の南蛮人とは？

平田 どこ？

青柳 606^へ-ジ^シ中段の真ん中より後の方。

平田 寛永19年のもの？

青柳 はい。

平田 すでに鎖国しているから、どこの国かちょっと判らない。ポルトガル人である可能性は高いけど。

青柳 こっちに来てたのでは？

平田 甌島を足場にして京泊にも来ているし、その意味で警戒したことは考えられる。

青柳 清国の登場で情勢に変化があったのでは？

平田 でも清国は自力で万里の長城を突破出来なかった。清の太祖ヌルハチがサルホの戦で明軍を破るのが1619年。その後、清は2代の順治帝の時代、瀋陽を都とします。日本の統治時代、奉天と呼ばれた所です。このように体制を整えながら、万里の長城は突破出来なかった。万里の長城を突破できたのは、明末に李自成の反乱があり、反乱軍が北京を占領した時に、明の防衛隊が山海関を開けてくれたのです。

満洲を日本が植民地にしたとの非難は世界史の常識になっていますが、満洲育ちの私から見れば、南満洲は昔とは全く変わった状態です。長春（新京）から北の方は殆ど変わっていませんが、南満洲は大変わりです。山東半島の連中が南満洲に入り込んで来て、全く違った様相を呈しているのです。昔ながらの満洲というのは長春から北の方、ハルピンとかね。北の方は古い形を残しています。漢民族の膨張は凄いです。

入来院貞 ウイグルの方でもね。

平田 ウイグルの人たちが騒ぐのも無理ないと思います。満洲族は漢民族とは違うわけですが、満洲族の住んでいる所は今は見当た

らなくなったのではないのでしょうか。山東半島は人口が膨らんで、満洲へどんどん移住しています。その現象は第2次大戦後のことです。漢民族の繁殖力は凄いです。今後、中国の経済力がどれ程発展するか判りませんが、日本と摩擦を起こさねばよいのですがね。
チャイニーズ=パワー

入来院貞 日本の山もだいぶ買っているのでしょうか。それで水を確保するのじゃないかという話です。

入来院重 日本はやられ放題。

入来院貞 買われたい放題。

入来院重 チャイナマネーがどんどん落とされている。金を落としてくれるから、まあ一ね。

入来院貞 別荘とか不動産を買いあさっているらしいけど。こんなことに日本人はもっと気を配らなければ。

入来院重 日本政府はチャイニーズに万歳でしょう。

入来院貞 中国は水が悪いから。

上野 日本の水は綺麗だし、豊富だし、日本から持って行った水を向こうで売るか、向こうの水を浄化するかして売れば、これこそ本当の水商売（笑い）。

平田 日本で水が豊富なのは屋久島だろうけどね。

上野 屋久島の水は石油を運んで来たタンカーが戻りの船に石油の代わりに積むバランス用で、屋久島の水を売りたいという国があるのですかね。水の悪い国はそれぞれの地元で浄化する道を選んだ方が手っ取り早い。

平田 栄枯盛衰常ならず、と云うけれども三・四十年前、世界で金払いが良かったのは日本人だった。

上野 中国の弱点は若い世代が減って行くこと。そのうち一人っ子政策で人口ががたと減る。

平田 減るだろうね。日本も少子化傾向で減って行くだろうからね。何か湿っぽい話になったね（笑い）。歴史は繰り返すというから、何とかなるでしょう。

商と工

入来院貞 お金持ちの中国人を招いて観光でお金を落としてもらったら。観光開発をすれば。

入来院重 それは駄目だ。

入来院貞 駄目？

入来院重 破壊されてしまう。

入来院貞 破壊される？

？ 日本の将来は心配だな。

入来院重 いや、大丈夫ですね。後、四・五年したら、日本は変わりますよ。必ず。今のところ、日本人はぼんやりしてますけれど世界経済が究極まで行くと活気付いてがらっと変わりますよ。やられ放題では変わって行けませんから。自分で守るという方向に行かないと駄目ですよ。

平田 これからの世の中はパソコンによる知恵の競争と云われます。パソコン教育は中国とかインドの方が進んでいるので、日本はもっと徹底せにゃいかん。

上野 世界一はアメリカです。ちょうど、その裏側がインドになります。だから時間的にアメリカの場合、24時間世界全体に目配りして情報を集められる。会社に24時間仕事をさせることが出来る。インドとアメリカの結び付きは強い。しかもインドでは英語は国語同様。中国語の文字の配列は文法的に英語に近い。そのような中で日本語は全く文法的に

違った存在。国際語は英語とよばれる時代に日本はやはり大きなハンディを抱えている。

入来院重 いや、二百年間はアングロサクソンの英語によって世界を支配されて来たから仕方がないのです。その上で商売が成り立っているわけです。商売をやる以上、英語をしゃべらないといかんのです。しかし、商はあくまでも商なんです。工を持っている国はやっぱり強いです。タクミの国はね。タクミの国は日本とドイツですよ。何だかんだと云ってもね、物を造る能力を持っている国は残るのですよ。コンピューターは伝達の手段。あれは、ネットワークの、商の世界、流通の世界。流通業のためにあるのであって、物を造る人間が物を造らなくなったら終わりです。日本とかドイツが、いずれ台頭して来るので大丈夫です。日本がその気になれば、あっという間に航空母艦を造りますよ。1千億。埋め立てて造る所は1千億かかるのでは。埋め立てて造る必要はないのです。航空母艦を1隻造ればよい。アメリカにやる必要はない。アメリカにレンタルすればよい(笑い)。遊ばせておけば良い。何年かすれば必ずそうなりますよ。

日本はその気になれば何でもできますよ。但し時間が足りないから発動しないだけでトップはアメリカばかりでしょう。日本は昔からトップはアホ。いずれトップはアホと自覚させられるでしょう。そうしたら日本はがらっと変わります。昔のままの日本にはならないけど、アメリカは日本が怖いから占領してるわけでしょう。東京の空はアメリカが制空権を握っているわけですからね。誰が日本を支配しているかと云えば、アメリカ大使ですよ。あれは総督府みたいなものだ。あれ

が総督ということはやられたい放題で、未だに占領されているだから。占領されていることをいずれにせよ自覚させられますよ。日本は必ず独立しますよ。そういう国なんです。あまり心配することはないのです。

チャイナとかインドなどは商売人の国で、物を造る能力なんか持っていませんよ。中国は日本とアメリカの経済的植民地ですよ。勿論、韓国もそうだけど。いずれ実態が明らかになる時が来るから、私は何も心配していません。

『中国共産党を作った13人』

? 地名のことにはあまり関係がないのですが、先日新潮社から新書が出まして、Tan Romi『中国共産党を作った13人』という本のあとがきに、先生に対する謝礼のことがありました。大正時代、七高に中国から多くの留学生が来ていたことと、西郷さんを慕ってのことだと書いてありました。先生もそういうアドバイスをされたのだなと感じました。

平田 私の前に林重太という七高の先輩の名があります。七高史研究会の事務局を担当していましたから、その紹介で譚さんが鹿児島に来られて、七高のことをいろいろ聞かれたのです。

? 譚さんとはどういう関係で?

平田 林重太さんの紹介です。七高のことを調べるために鹿児島に来られたのです。その時、中国留学生の資料(中国・台湾・朝鮮からの留学生のカードを作成していた)を渡したのです。ただそれだけのことです。譚さんの国籍はどこかな?

? 台湾と書いておられます。

平田 お父さんが中国、お母さんは日本人

? そこに黄興の碑があります。黄興のことをだいぶ書いておられるので、それで私も関心を持ちました。

平田 この人は慶応を出ていますから日本のことも詳しい。

? 譚という珍しい名前。

平田 中国でも珍しい。南方系の人でしょうね。

? 13人が中国共産党を作りあげたのだけど、毛沢東はその末席でスタートしたと描写しているのです。

平田 13人のうち半数は日本への留学生で、七高への留学生では周佛海が目立っていました。それで七高史研究会に目を付けられたのでしょう。

十年之戦：西南戦争

上野 604頁に『征西戦記稿』に出て来る八重山があります。八重山経由で官軍が来るわけですが。

平田 本来の呼び名は八重山。

上野 その時、入来院から登って来た官軍であって、樋脇からの官軍ではないと思うのです。樋脇からも2グループあります。

平田 西南戦争は細かいところと云うか、戦史的な整理はほとんどされていないと思うのです。『薩南血涙史』以上のものは出ていないし、『西南記伝』以上のものも出ていない。鹿児島の連中は案外調べていない。

上野 鹿児島の連中はすべてを西郷さんに話を結び付ける研究に終わっている。

平田 そういうことに留まっている。まあ負けた戦争は、皆、あまり書きたくない。

上野 各市町村郷土史も地元から出征したメンバーのことを記述するだけで、全体的推移の分析はゼロに近い。また郡部では「十年

之戦(じゅうねんのいっさ)という表現。

平田 うちの親父なんかは「十年之戦」と云っていた。これも鹿児島市だけの表現で、生還した連中の呼び名に従っていたのだろう

明治期の戦争の表現を振り返ってみると、明治二十七・八年戦役→日清戦役→日清戦争 明治三十七・八年戦役→日露戦役→日露戦争 十年之戦→十年之役→西南之役→西南戦争。すべて高校日本史の教科書にもとづき表記が落ち着いたとみられる。

? 大口では「十年之戦」という。

平田 鹿児島の健児の舎のほとんどが十年之戦の後に出来た。負けた悔しさから立ち直れとの意味合いもあります。それは根強かった。鹿児島県の各郷土史は自分の育った処の連中がどう戦ったか、どうなったか、ということしか触れていません。

上野 蒲生町がいろいろ書いているのは、小隊でまとまって、蒲生隊として参加・行動したからだと思います。蒲生にはそのようにまとまった気質が受け継がれているし、また薩軍に対しての恨みも残っている。

平田 薩軍が鹿児島奪還戦に敗れ、7月下旬以降、官軍に協力させられた者たちが、8月末、薩軍の城山帰還途中、蒲生通過時に蒲生の川原や鹿児島で斬られ、残念墓として残っているのも見逃せない。

上野 もう一つ、山形県も県としての記録はないのです。しかし山形県から参加した人たちの記録はあるのです。それは本人のものでなくて息子たちが残した私的記録と思う。

平田 西南戦争に関わる懲役人は、全国にばらまかれています。監獄に収容されたメンバーが判明しているのは、市ヶ谷監獄と仙台監獄の2ヶ所だけなんです。それと今出て来た

山形県とで3例目。

上野 足許の鹿児島県と宮崎県と熊本県が判っていない。とくに鹿児島県と宮崎県がないのは考えられんですが、判っていない。山形監獄のことが伝わって来たので、山形県まで行って調べようとした人がいた。行ったら、監獄長は鹿児島の人だった、と。山形県には公的記録はないが、私的記録はある。

? 今、西南戦争の話になっていますが、鹿児島県では十年之戦と云い慣れて来ているので十年之戦と云います。十年之戦の主体は私学校徒ですが、鹿児島には反私学校徒もいたのです。始良郡の犬童という人物が・・・

上野 この犬童(イヌコ)の戦争は、6月で終わっている。鹿児島に行って薩軍に加わろうとしたら、私学校の者だけだと、ことわられた。人吉に行って申し込み、と。要領を得ずに人吉に行ったら、加治木隊がいた。しかし人吉には官軍が迫りつつあり、官軍に捕らえられ斬られる羽目になる。一方、赤塚に率いられた藩生隊は降伏後、官軍に協力して、日向各地を回っている。

二十三人の視察団(刺殺団)

入来院貞 加治木に川上親晴という人物がいました。初めは熱烈な西郷崇拜者だったのですが、後に西郷さんの言動に幻滅して・・・

平田 二十三人の視察団(刺殺団)の一人ですね。

入来院貞 視察団ではないのだけど捕らえられて同じ所に入れられてしまう。視察団というのも、あれも戦略だと思うのです。

平田 川路の?

入来院貞 そう。要するに、弾薬を盗まれたりとか、あおって乱を起こさせて叩きつぶすアジだと思うの。

平田 視察団は鹿児島県の情勢がおかしいとすることで帰国させられたメンバー。知った連中に国内の情勢を話し聞かせて、私学校から離脱させようと思った。

入来院貞 視察団はお巡りさんが主ですが柏田盛文のように慶応で学んでいたのに一緒に帰って来た者もいた。別に西郷隆盛暗殺を考えていないのにそれをアジる新聞があり、私学校の連中が乗ったと思うのね。

西南戦役は云ってみれば大きな内乱です。私学校は明治政府にとっては最大の癌で、それをどうやってつぶすか。大久保利通の日記とか手紙をまとめた古い本3冊を4万円ぐらいで買って、手紙などを全部見ると西南戦争が起きたことを喜んでいたらいい感じなんです。だから大久保利通のことはライフワークで調べなきゃいけないと思っています。

二十三人の視察団は官軍の鹿児島攻略時に救い出されて全員神戸に連れて行かれます。川上親晴さんは別待遇でした。

私学校の連中が農民たちを下駄で殴ったりしていたことなどを書いた『私学校〇〇』という本を県立図書館で見ました。私は多数の純粋な私学校の人たちを騙した少数の人たちがいたと思っています。

上野 西郷軍に参加した人たちは新政府の目指す改革の方向がよく理解出来なかった。純粋に世の中の不透明部分をすっきりさせたかった。自分たちがやろうかと考えていたところに、西郷隆盛がのろしをあげてくれたので、是れ幸いとばかりに飛び付いた。西郷軍が農民たちを云々というのは逆からの発想。現実はどうでもない。そういう割り切り方・考え方でなければ官軍と戦えるはずがない。

(以下、10行程度省略)

地名研究会報

第 115 号

平成 23 年 6 月 5 日

鹿児島地名研究会

- I. 115回例会 平成22年12月5日(日) 於西郷南洲顕彰館研修室
(出会者) 青柳俊二、今村誠一、上野堯史、川野雄一、築地成郎、寺園貞夫、
中島忠紀、西 郁郎、浜田良知、平田信芳、松浪由安(計11名)

- II. 大日本地名辞書読会 p.608~p.609

串木野、日置郡、合良郷、冠岳、市来、伊作田、伊集院

《話題となった地名および事項》 島津氏三州制覇の経緯、伊集院氏の対外交易、
串木野、市来・伊集院、金竹の生け垣、会運営のあり方、会報の保存、
鹿児島島の歴史的役割、西南戦争

島津氏の三州制覇の経緯

平田 薩摩国では串木野を巡る争いが目立ちました。

浜田 それは以前から知っていました。現実には大きな処での戦闘は？

平田 勝者のものになるとの解説をしたのは、大日本地名辞書だと思います。五味先生からそのような説明を受けたことがあります。歴史的史料としては、薩摩国・大隅国には建久図田帳という土地台帳があります。半世紀ぐらい後に、元寇の防塁：博多湾の石垣を築く時の割り当てが大隅国の分については史料が残っています。それから薩摩国の在庁官人として大前氏が知られています。

浜田 大前氏は東郷・宮之城を支配した。

平田 大前氏は、東郷・宮之城という薩摩国府の周辺をどんどん開発して行った。国府周辺をどんどん開発して行って、土地台帳などにデータを残しています。東郷・宮之城という処は薩摩国・大隅国へと続いていた土地柄なので、データが残りがちだったのかも知れません。

伊集院氏の対外交易

中島 伊集院のちょうど中程に「朝鮮との通商。歳船が往来した」とのことがありますか？

平田 歳ごとに船：交易船を派遣したということです。

中島 遣ったり、来たりしていた。そういうことが伊集院で行われていた？

平田 伊集院は海岸に近い処ですから、その支配地のどこからか李氏朝鮮に通わせていたのでしょうか。

中島 正式なものでなく、時々通わせたのでしょうか？

平田 正式な交易でしょうね。伊集院氏は島津氏の第2代から分家していますから、島津のなかでは有力な家柄です。そして、早くから船人たちの助けで対外交易で活躍していたと思われます。目配りが深かったということでしょう。

西 鹿児島と串木野の中間という位置もあったのでしょうか？

串木野

平田 『海東諸国記』などにそれらの活躍が記録として残っていたのを、三国名勝図会

が寺社を中心にまとめたのです。明治の初めまでは串木野は全くの田舎だったのです。むしろ市来の方が繁栄していました。串木野麓はJR串木野駅の北側にある山の裏側にありますから、目的を持って訪ねる者以外でない限り気付かない処です。串木野麓とか江戸時代の旧街道は、市来湊の八房渡を渡ると道は真っ直ぐ串木野麓に向かっていきます。

寺園 地名は同じようなものがあちらこちらにあるでしょう。例えば今読んで『大日本地名辞書』に記載されている町。

平田 村の守り神とされる代表的神社は、大字ごとにあった。それはいずれまとめようと考えています。明治以降の大字は、江戸時代では「村」だった。大字は歴史的行政単位として重要視すべきものです。主だった神社は大字ごとにあったのです。大字は多くの小字に分かれています、小字のほとんどは明治22年に名付けられたものです。

西 早い時代に名乗ったのでしょうか、郡や郷などの地名を名字（苗字）として名乗ったのは、鹿児島県では多いですね。

平田 そうですね、ほとんど皆、残っています。例えば、谷山・喜入・指宿・頼娃・加世田・伊作・市来・入来院・加治木・阿久根・菱刈・吉松・鹿屋・祢寝・種子島など。そう言った所には島津家から、皆、養子が入り込んでいます。従来、地名と名字（苗字）という観点から眺めてはいませんから、あまり気付きませんでした。鹿児島県の地名は古いものが殆ど残っています。

西 市町村合併で古い地名がどんどん消えて行く心配がある。

平田 地名にこだわるのは支配者だけですが、大多数の農民・漁民が住んでいるの

がですから、地名まで変えるということは大きな支配者でも簡単には出来なかった。容易に変えられないのです。民衆の力を無視しては地名などは付けられないわけですから、古い地名は残るのです。

串木野は、櫛を作る木が生えていたなどの話は地元の人たちの言い伝えでしょうけど。

寺園 櫛木野ね。その人たちの話を集めるのも楽しいけど。大木とか亀（瓶）が付く地名を集めたことがあります、地形図を見ると「亀」は当て字。

平田 串木野の場合は、伏木（倒れた木）という考え方に由来するとの説もある。

市来・伊集院

平田 芹ヶ野は「芹」が生えている処。羽島浦は端っこの方にある岬から来ているのでしょう。市来(イキ)については、普通イキと振り仮名が付いており、昔の音ではキとクの区別が付かないのです。「壱岐のクツネ」という表現があるのですが、壱岐島では狐のことをクツネというので、キとクの区別が付かないことを「壱岐のクツネ」と茶化された。鹿児島語では全体的に「キ」と「ク」は詰まります。市来(イキ)とか伊作(イヅツ)、と。

伊集院というのは寺の名前から来たと思うのです。それと似たようなのが、大隅国清水(キヨミズ)の史料に「聚集院」という寺の名前が出て来ます。「集院」という下の方の表記が同じですから、伊集院という名の寺があった：伊集院という寺の名前から来たと理解したいのです。

寺園 ユスの木の里ということから。ユス院→伊集院になったと云われています。

平田 それは、とって付けの話です。

寺園 とって付けの話ですか。地図を見て

も、そこにはユスの木が生えていますし、ユスの木を屋敷の境界にしている。

平田 伊集院の町をあげて、そのように宣伝しているだけのこと。私の家もユスの木が屋敷境に植えてあります。今でも南側と東側に残っています。

金竹の生け垣

寺園 知覧の屋敷を見ると、金竹の生け垣をしている処もあれば、ユスの木を生け垣にしてある処もある。知覧の立派な屋敷でも、江戸時代にあんなものが出来る筈はないのです。

平田 武家屋敷に多いのは金竹の生け垣。金竹の繊維は火縄になるのです。また金竹は矢の材料になる。薩摩国の場合は、藩の命令で必ず植えていたのです。

浜田 山の境には金竹。左側は俺げん土地やっち。

平田 そのように教わったんですか。

浜田 境を見つと隣がこっちん方ばっかい広うすつごっあつ、と。爺さんの話でよく聞くもんじゃった。

平田 ここで10分ばかり休憩しましょう。

会運営のあり方

平田 私もびっくりしたのですが、主人が病気で居なかったからか、パソコンのプリンターまで云うことを聞かんのです。パソコンでインプットしてもプリンターが狂ってようやく昨日の夕方に入ってから文章を作ることが出来ました。入院前から退院後まで、3ヶ月ぐらい放つたらかしにしていたので、プリンターが狂って云うことを聞かないのです。そんなことで114号を印刷出来たのは、昨夜でした。

『大日本地名辞書』も薩摩国の終わりまで

2ページずつ読んで行けば、後13回。年6回ですから、後2年すれば終わりになります。後継ぎをと考えているのですが、後継者になろうと云う者がなかなか現れません。後を引き継いでやろうという人がおればやって下さい。『大日本地名辞書』に取り掛かる以前は3ヶ月に1回だったのですが、今は2ヶ月に1回です。2ヶ月に1度となると、案外忙しい。ラジカセでテープを起こし、印刷すると結構忙しい。20年ほど以前、川内の江之口氏が私が入院した時に1回引き受けてやってくれたのですが、1回で悲鳴をあげました。あと13回で解散するのもしんどいと思っています。そのつもりでおつき合い下さい。それまでの間に引き受ける人物が現れたら、地名研究会を譲ります。

上野 先生の体調を考えると、3ヶ月に1度とされたら、どうですか？また、2月が寒いから4月から再出発というのは、どうですか？

平田 2ヶ月に1度ぐらいの方が、ぼけなくていいのです。

寺園 研究会としては2ヶ月に1度ぐらいが良いと思います。

上野 2月は寒いので見送るとして、4月に2ヶ月に一遍とするか、3ヶ月に一遍とするかを、考えた。後は、先生の体調次第で考える。

平田 今後どうなるか判らないけど、医者がどう判断するか、その次第です。私の肺はもうボロボロだそうです。煙草を喫っていた所為で。22年前に止めたのですが。

上野 私は先生が煙草を喫っていたのを見たことがない。それ以前の話ですか？

平田 煙草で肺は滅茶苦茶になっていると

のことです。今回の脳梗塞の引き金は肺の傷だという。肺の傷をどう処置するか。手術で背中を開いて、つぶさなきゃならないとか。若い医者はいろいろ云っているらしいけど。80歳を越えて、手術の必要があるのかと思ったりもするけど。

寺園 私はね、医者の考えに従った方が良いと思う。

平田 この研究会は、外見では簡単なようだけど、一番手間がかかるのは、毎回の内容を資料として配って来たこと。

寺園 会員が順番で司会をやるとか、いろいろ方法は考えられるけど。

平田 一番難しいのは、例会のテープ起こし。しゃべっている言葉は、文章にならないんです。思いっきり削らなきゃならん。一体何をしゃべったのか、判らなきゃならんのです。しかも発言が聞き取れない場合が多いのです。

上野 先生が休んだ時、引き受けたら1回でお手上げでした。

会報の保存

浜田 関連があるのですが、今までの会報は後学のためになると思うのですが。

平田 県立図書館には全部届けています。1号から112号まで届けてあります。いずれ刊行本にしなければならんと思っています。

浜田 ああそうですか。記録がないと、すらすらと入れません。

平田 『大日本地名辞書』を読むのが残り13回分。残り13回分を読めば、大隅国・薩摩国は全部読むことになります。

浜田 その後は？

平田 それから後は若手が立て直して行けば良い。会報は1号から全部残っています。ただし、テープは第28回(1999. 3)以降のみ。

それ以前は残っていません。この会は何年になるかな。会報100号で25年。昭和58年：1983. 9からの会ですから27～8年になる。しゃべったことを全部文章にまとめて来ました。誰か加勢してくれたら、余っているバックナンバーをいつでも持って来れます。

鹿児島県の歴史的役割

寺園 鹿児島県の歴史が重要なことは、幕末・明治維新に大きく関わったこと。

平田 鹿児島県の歴史で考えなければならぬ最も大事な要素は、島津氏に対する遠慮があること。歴史的展開を分析すれば、島津氏は北朝方・足利尊氏に付いて勢力を伸ばしたのです。島津氏の家来として、それを悪く云うわけにはいかない。明治になると、明治維新で大きな力を発揮するけど、西南之役では逆賊になります。他の県とは違って、すぐ側に眠っているわけだから、徹底した分析が出来ない。「勝てば官軍、負ければ賊」とうそぶいています。

寺園 地元では、立場において考え方が違って来る。中学生たちに、西郷さんと大久保さんのことを聞くのだけど、ほとんどが西郷さん最悪。大久保さんのことは、ほとんど知らない。山口さんという人の話だけど、西郷支持は8割ということなんです。

平田 負けており、しかも有能な若者のほとんどが死んだのだから、血のつながりから当然そうなるでしょう。冷静に分析することは鹿児島生まれの歴史家の義務なんだろうけどね。

薩軍戦死者について、鹿児島県出身者のカードは出ています。宮崎県の中途で入院してしまって、しばらくはストップ状態です。鹿児島県出身者だけを見ても、熊本段階で戦

死者の4割は戦死していますから、熊本段階で完全に負けだった。それから後も9月までだらだらと戦争を続けたのです。

川野 先日、隠れキリシタンのことを知っていたのですが、どこから手を着けたら良いか。

平田 どこに隠れていたか、気付いたところから始めれば良い。まだ太陽の目を見ない史料は相当あるはずですよ。

西南戦争

平田 西南戦争でも、九州各県から相当数参加しています。もちろん鹿児島県が主だけど。熊本県の人たちのことを各市町村郷土史を見ても見方が違うのです。宮崎県の人たちは、西郷さんについて厳しい見方をしています。鹿児島県の連中は、熊本県・宮崎県の各郷土史を誰も見ていないのです。そこ辺りから見直して行かなければいけないと思う。大分県の人々はどう見ていたか、宮崎県の人々はどう見ていたか、と。こんなことを南洲顕彰館でいうのは不謹慎かもしれないけど(笑い)。現在の状態：西郷支持の面では西南戦争当時とあまり変わらないと思う。

寺園 歴史理解のことでは、世の中、箱物に人気があるような。

上野 人間的な面では、西郷人気は天上の世界だ。

浜田 事の良し悪しは別として、西郷さんの良い所は陽気だったということじゃないかな。大久保さんは、損な立場なんだろうね。書簡とか行動とかねは陰険ですよ。これだけは云えます。

？ 私学校での教育は？

平田 村田新八とか篠原国幹がリードしていたので、西郷さんが直接集めて話をする

ようなことはなかったでしょう。しかし鹿児島県の歴史家は西南之役の分析に、永久に負担を感じなきゃいけないと思います。鹿児島の場合、「西郷さんは偉い」ということしか、教えられていないのです。

浜田 西南戦争だけで西郷を語るとするのはちょっと端的な見方。戊辰戦争・台湾征討・江華島事件などは全部一連性があり、その中で考えないと、西南戦争だけを抜き出すと変な理解になる。江華島事件などは西郷さんが考えるとおりになった。結局は砲艦外交だった。遣韓使節という主張だったとしても、江華島事件などは100%の砲艦外交だった。それが西郷さんの考え方であって、西南戦争だけを考えるのは見方が浅い。

平田 うしろの方にいっぱい貼ってある展示は西郷さんの細かい分析。西南戦争の分析も西郷さんは偉いというところに結び付いて行った研究だから発展性がなかったのかも知れない。

寺園 南州遺訓に西郷さんの思想がまとまっている。

平田 南州遺訓をまとめたのも山形県庄内の人たちだ。

青柳 西南戦争は薩摩士族の戦いですね。

平田 農民たちも弾薬運びとか、いろんな仕事をさせられています。手柄をたてたら士族に取り立てるといふ餉があった。だから単なる士族だけの戦いではなかった。

青柳 西南戦争の敗北に際しては、層民は見下ろされて戦争の責任は追及されなかった

上野 農民の不満が溜まっていたということが注目されつつある。

平田 西南戦争は大きな歴史的課題を残していると理解して終わることにしましょう。

地名研究会報

第 117 号

鹿児島地名研究会

I. 第116回例会出会者

青柳俊二・今村誠一・川野雄一・寺園貞夫・中島忠紀・浜田良知・平田信芳・
松浪由安・山下東洋・米原正晃（計 10名）

II. 大日本地名辞書読会 P.610～P.611

苗代川・麦生田・納薩郷・富多郷・伊作・利網郷・田布施・吹上浜・阿多郷
（操作ミス：録音失敗、第116号は欠号）

I. 第117回例会出席者

青柳俊二・今村誠一・上野堯史・川野雄一・築地成郎・中島忠紀・西 郁郎・
浜田良知・肥後吉郎・脇岡修一郎・平田信芳・山下東洋（計 12名）

II. 大日本地名辞書読会 P.612～P.613

阿多・万野瀬川・秋妻屋浦・川辺・鷹屋郷・加世田

《話題となった地名および事項》

片浦の漁師・鑑真の歩いた道・阿多と佐多・西安（長安）・大運河とクリーク・
世界の古都・上海・碑林博物館・ 仏教と回教・錦州

片浦の漁師

平田 学生の時、鹿児島から田布施・加世田・片浦へと歩きました。片浦に中学時代の同級生がいましたから、高下駄を履いて出掛けました。そして、片浦から坊津に出て枕崎・加世田・田布施を経て、鹿児島に帰ったことがあります。大学祭がある時、そちらに出ずに一人で木刀を持って歩いたことがあります。

今日読んだところで何か疑問がありましたら出して下さい。歩いた時には、坊津町久志に玉川学園の高校があり、電気が煌々と点いておりましたので、雨でずぶ濡れになっていましたので、その寄宿舎に泊めて欲しいと飛び込みました。高下駄を履いていて学生と判ったのでしょうか。一部屋をあ

けて舎監の先生が泊めてくれました。

浜田 玉川学園と云えば、小原さんが作られた学校？

平田 そうです。小原さんは、こちら出身の方ですから。玉川学園はユニークな学校でした。

浜田 確か森先生が関係しておられたのでは？ あそこには森姓が沢山ある。昔、森一族が県議員を独占していた。明治中期は森一族が川辺郡を独占したようなものだった。

平田 坊津・枕崎の森一族？

浜田 森一族に須佐見という家がある。

平田 鶴丸高校に須佐見という先生が居られた。

浜田 私の同級生です。

平田 あゝ、そうですか。

浜田 坊津の森屋敷。坊津で一番大きな家です。

平田 鹿児島大学医学部の産婦人科に森先生が居られたことは知っています。七高ホッケー部の先輩で、天覧試合に参加された先輩です。この地域にある田布施・阿多・加世田・大浦・笠沙・秋目・久志・坊・泊・枕崎は、歩いて面白いです。

笠沙の同級生は片浦の網元で、親父さんから朝早く5時半頃に起こされて漁場に連れて行くから来いとのことので伝馬船で漁場に向かいました。漁場に着くと、たくましい連中が網をあげていました。その顔つきを見ると中国人そっくりなんです。皆、日本人離れしているのです。私は向こうで育ちましたから、あゝこの人たちは倭寇に捕まって連れて来られた人々の子孫だと思いました。私の同級生は髪の毛は縮れ毛で完全に南方系なんです。そんなことから、笠沙あたりは倭寇の子孫だったと考えられます。

鑑真の歩いた道

浜田 鑑真は奈良へ、どう行ったのか。大牟田の先で筑後川を渡って大宰府へ行ったであろうとの説があるのです。最短距離を考えると、恐らく船便で直接行ったのではないかと。船へ難破したと云うけど、粉々になったのではなくて大して壊れてはいなかった。鑑真は医薬品とかいろんな荷物を持って来ています。それをどうやって運んだかを考えると、当時の道路事情を考え、また地元で伝承として伝わっていない所を見ると、船便で直接、大宰府へ向かったであろうと云われている。

平田 「大唐和上東征伝」を見ていないので、何とも云えませんが。

浜田 筑後川の下流域には何らかの伝承があるのではと思います。鑑真一行は着いた後、大宰府・都へと急いでいるのです。東大寺の落慶法会があった後に着いている。その為に急がされたと云われている。しかし海路行ったとの文書は何もないのです。奈良までの日数を逆算すると、船便しか考えられない。

平田 基本的な文献を読んでいないので何とも云えない。どうですか、皆さん？

上野 鑑真は天平勝宝5年(753)に着いたのですか？

平田 読んだところでは、鑑真は秋目を十二月に出たのでしょう。

上野 今で云えば、一月？

平田 旧暦と太陽暦の差は、大体40日。

上野 まあ、一月ですね、

平田 荒れる時期だからね。島伝いでも相当こたえる筈だけど。

上野 出発の時期は一月から二月の頃だとすると、周囲は自重している時期だから注目を引いたでしょう。

平田 鑑真は既に視力を失っているからね。来た時には。

浜田 この頃は視力はまだあったという説が出ていますから(笑い)。

上野 私は以前から疑問に思っているのだけど、何故目の見えない方があき目(秋目)という所に着いたのか(笑い)。

平田 地名語尾に「メ」が付くのは秋目とか八女とか久留米とか、地名辞典から拾ってみようと思っただけで、やっていません。

上野 横目とか流し目とか、一般的には

お笑いの世界になるので(笑い)。

平田 常識的には女性名だろうね。そこに居た女性の名。秋女とか夏女(夏目)などの女の子が居たということで、そういう地名が生まれたと思うのだけど。そしたらどこでも付けられる。

上野 女の子の名前から。ああそうか。

平田 その方が判り易い。そこに、アキちゃんが居たわけだ(笑い)。一昨日、本屋に行ったのだけど、丸屋の跡のジュンク堂か。歴史関係の書棚を見ると、細かいことを突っ込んだ本がずらりと並んでるのだね。ちょっと驚いたのだけど。

上野 どんなことですか？

平田 「魏志倭人伝」とか「卑弥呼」とか、分析が細かくなっている。

上野 判らんから何とでも書ける。ふくらまして、どうにでも書ける。本当かいというのがある。

平田 どんどん出て来る。ふくらまして書くにしても、例えば、先程話題になった「メ」にしても全国に「～メ」の付く地名がどのように分布しているとか、そう云ったものから論じて行くのが正しいと思う。

上野 そうですね。

阿多と佐多

平田 例えば、今日読んだところの「アタ」と「サタ」。薩摩半島に阿多があつて大隅半島に佐多がある。四国だったかな、アガタ郷とサガタ郷というのがあります。対比的に。「ア」と「サ」は対比的な地名だと思っただけです。そうした場合、「アタ」は自分の田圃ということに、「サタ」は誰かの田圃ということになる。そこに突破口が開けると思うのです。そういう比較を日本全国の地名から探してみようと思うのだ

けど、なかなか。

2月から4月まで、入院していましたから新聞スクラップが追いつかないのです。宮崎は高橋貝塚の側に神社があるので、その名を採ったのでしょうか。万之瀬川というのは馬の瀬の形ではなく、数多くの瀬があるということ。万之瀬川流域を歩いてみて、そのように感じました。特に花瀬(ハナゼ)なんかを見て、そういうことに由来する地名だろうと思いました。秋目は先程説明したように女性名に由来する。鷹屋は鷹狩をやったことを考えると、「鷹」に由来する地名。「竹」を多く産することから「竹屋」になったというのは、どうでしょうか。加世田に近い語句は「カセダ打ち」とか「カセ畑」。「カセ」とは貧しい土地の表現。豊かな土地の反対です。質問がなければ、ちょっと休憩しましょう。

西安(長安)

上野 日本から行く船は、いわゆる箱船みたいな構造で波を切って行く船ではないのです。夏の南東季節風：軟らかい風に乗って行くことになる。

平田 遣唐使などは、夏出掛けて冬帰って来る。南東季節風で出掛けて、北西季節風に乗って帰って来る。遣唐使船は中国に着くと、ボロになっているから帰りは新羅の船を借りて帰って来るが多かったという。

実は7月9日から4泊5日の日程で西安に行つて来ました。中国で千年以上、都があつた処です。向こうで育っているのです、西安(シーアン)と発音するのに抵抗はないのですが、日本では西安(セイアン)と呼びます。北京(ペキン)・上海(シャンハイ)・南京(ナンキン)・広東(カントン)

などは中国語に近い読みです。西安は何故かなと思ったら、シナ事変（日中戦争）・第2次世界大戦の時、日本軍に占領されていない。明・清時代、日本になじみのない土地。千年以上、都があった処。帰って来てから、しまったと思ったのは、日本語版が判り易いと思ったのですが、中国語版を買えばよかったなと思いました。

日本語版に黄色のサインペンでアンダーラインを引いておきましたが、恐らく中国からの留学生たちが翻訳したと思います。日本人ならばこんな表現をしないと思う箇所にアンダーラインを引きました。

秦の始皇帝の兵馬俑というのを見て来ました。受付で買ったらサインしてくれるので、サインを貰いました。何と書いてあるかという、秦の俑を発見した人。世界的な遺産になった兵馬俑を発見した爺さんが座っているのです。そういう爺さんがサインしてくれるのです。まあ、儲け物だということです。

秦の始皇帝の陵は、このようになだらかな山です。陵そのものは、まだ発掘されていません。周囲の副葬品：兵馬俑の調査から入っているのです。2 m.幅のトレンチ調査発掘。3 m.あけて2 m.のトレンチという具合に、発掘しているのです。現在もトレンチの数が増えており、兵馬俑の復元も同時進行で進められています。等身大の焼物：兵馬俑が併行して復元されています。その数が7千体を超すと云われています。しかも全体を通常の体育館よりも5倍ほど大きな覆屋で覆っている状態で、スケールが大きいなと思いました。中国国内はもとより世界各国からの観光客が数多く来ております。行ったのが月曜日だったのですが、

見物客の多さに、世界的に有名なのはスケールが違うなと思いました。

上野 兵馬俑の一人々々の顔は全部違うのですか？

平田 全部違うのです。今でも復元が進められています。7千体違うと云われます。これは圧巻です。だいぶ撮ったのですが、途中でデジカメの電池が切れてしまって、どうにもなりません。兵馬俑は覆ってから発掘したのです。その広さは高等学校の体育館を5つ並べたような広さです。

これの次には「」は漢、「」は陽。漢陽陵。漢武帝の父親：漢の4代皇帝景帝の陵。此処は残念ながら写真を撮ることは出来ませんでした。最初はカメラを2台持って行くつもりでしたが、女房が反対しまして、重たいのは邪魔だと云われまして(笑い)漢陽陵は写真なしの結果になりました。始皇帝陵の隣にあつて広い面積の発掘調査がなされているのです。そこには3万体の俑が作られていたのです。もっとも等身大ではなく、1/3ほどの人形で、3万体です。そして、その当時使われていた実物大の壺や瓶が副葬されているのです。その意味では考古学的には重要視されます。

有名な則天武后の陵（夫の高宗と共に埋葬）も同じ地域にあります。その他、皇帝の陵などはちゃんと判っているそうです。

日本で云えば天皇陵として残っている前方後円墳を徹底して調査すれば、同じ時代の文化が判って来るのでしょうか、中国のような大々的な発掘調査はされていません。

楊貴妃の墓は玄宗皇帝の陵と共に知られているのですが、調査されていません。

日本人で有名なのは、空海と阿部仲麻呂です。尋ねもしなかったのですが、最澄の

ことは一言も出ませんでした。日本では伝教大師最澄・弘法大師空海と云われるのですが。

中島？ 鹿児島から、どのような経路で行かれたのですか？

平田 鹿児島から上海。上海から西安。

中島？ それは交通公社が募集した旅行。

平田 そうです。阪急交通が鹿児島で募集した団体旅行です。15人揃ったら採算がとれるらしいのです。22名の団体でしたが、20名前後の人数が団体客としては、まとまりが良いようです。これから気を付けていたら、募集があるだろうと思います。

西安は城壁がすべて残っている唯一の処です。中国で城壁が完全に残っているのは西安だけで、他は城壁・門が一箇所残っているに過ぎない。西安（古名、長安）は見る価値があります。もう一回、長安に行こうかなと思っています。

浜田 銭がかかっど(笑い)

平田 そんなに費用はかからない。西安の街路：東西南北のメインルートは6車線。2車線と4車線に分かれています。4車線というのは街から出て行く方が多い。北京へ向かう車が多いのかなと思いました。2車線の道路は、土壁の塀に、土塀の向こうにある商店の名前が書いてあります。塀の向こうは1車線分の人専用の道路があつてそれぞれの商店の入口があります。4車線の方は人道越しに商店が軒を並べていて、ショウウィンドウを眺めながら、買い物しやすいようになっています。結構楽しめる街並になっており、しかも坊ごとに2車線・4車線が入れ替わります。

城壁の東側に玄宗皇帝と楊貴妃が暮らした一画があり月曜日にその公園をぶらっ

と歩いたのですが、人出が多いのに驚きました。50人ぐらいのグループで5～6組がダンスをしている。あるいはコーラスをしている。それぞれのグループのリーダーは30才代の女性です。男は5～7人ぐらいのグループで太極拳をやっている。そんなグループが沢山あるのです。皆、のびのびとやっている。女が強いと感じました。女性が皆を引っ張って行くのです。

ホテルに行く途中、わーっと声があがったのは、こんな所に張学良の家があつたということでした。この一帯（城内の東南隅）が、1936年12月に起きた西安事件の場所だったのです。私は反対側に座っており、其処は見えていなかったの、またの機会に見たいなと思っています。西安事件は張学良が蒋介石を軟禁し、国共内戦を止めて日本に抵抗すべきを納得させた事件です。それから7ヶ月後、蘆溝橋事件が起きたのです。

国民党軍（新四軍）を戦後見ましたが、アメリカからいろんな援助を貰って洒落た服装をしていました。ポケットモンキー：Pocket Monkey 小さな猿にチョッキを着せて、ポケットに入れていました。小さな猿に敵の側に手榴弾を置いて来ることを仕込んでいたのです。

長男と孫が同行したので22人グループの中では平田家が4名を占め、家族としては多い方でした。また男性よりもおばちゃん達が多かったのがツアー旅行かなとも思いました。

西安は行く価値があります。此処からがシルクロードです。シルクロードの始点になります。遣唐使が行った唐の都だったのです。

城壁：高さが12m.幅は上部で15m.下部の幅は20m.ぐらいあります。中国で城壁が残っている処は多いのです。昔、州県制が行われ、州城であったり県城であったりしたことに由来します。そういう処には大きな城門が残っています。また大きな目抜き通りを大馬路（ターマロ）と云います。子供の時、聞いた地名が西安にもありました。なるほど、どこにでも大馬路があるのだ、と納得しました。

公園でのダンスの光景を見て、中国が強かったのは女が強かったからだと思いました。また西安市に道路番号が行政区画か不明ですが、八路（パーロ）という所がありました。八路軍と呼ばれたのが、中共軍（中国共産党軍）でした。いわゆる毛沢東・周恩来が率いた軍隊です。地図を見て、八路の語源が西安にあったことを知りました。

大運河とクリーク

平田 行きは曇りだったのですが、帰りは上海を上空から眺めました。上海は（略図を描く）、長江（揚子江）の支流である黃埔江のほとりにあります。西安市は黄河中流の支流：渭水のほとりにあります。

隋の煬帝の時代、北京から開封（北宋の都）を通り、さらに開封から同じぐらいに離れた処の揚州まで大運河が造られたのです。上海は揚子江河口の右岸にあります。北宋の都が汴京開封府です。

長安（西安）郊外にある秦始皇帝陵は、驪陵（りりょう）と呼ばれますが、現代中国の文字では馬廄がとなり、は驪だと云われても、すぐにはピンと来ません。秦始皇帝陵の高さは約115m.だったと云います。現在は高さ50m.ぐらいしか残っていません。秦始皇帝の驪陵が位置する処は、

頂上まで海拔1,115m.ぐらいです。この辺からずっと0m.まで：黄河下流域まで降って来るのです。

黄河下流域や揚子江下流域というのは、昔は湿原地帯だったのです。湿原地帯に大運河を造ったら、そこに水が流れますから周囲を乾燥させます。それに気付いたのは上海上空からの観察でした。クリークが未だ残っていました。そのクリークも殆どが周囲の水田や畑に水を供給するためのものと気付きました。隋の煬帝の時代に大運河は造られたのです。永濟渠・通濟渠・邗江・江南河などです。これは湿原地帯を耕作地に変えるための術だった。上海のクリークも農業用水に使うためのものだったと云えます。単なる水運だけでない凄い知恵だったと思います。日本では湿原地帯は少なく知られているのは釧路湿原。釧路湿原に運河を造れば立派な耕地に変わるだろうと思いますが、湿原をなくすれば丹頂鶴の生息がおびやかされます。

上海ではクリークが埋め立てられてマンションが建てられつつあります。クリークを残せば、上海事変・シナ事変で日本軍が苦勞した処と判って日中戦争の実態が判るのでしょうか、そのことに中国政府は気付いていないなと思います。

湿原地帯に次々にマンションを建てたら地震が起きた時、液状化現象でマンションは一遍に引っくり返ってしまいます。そんなことを忠告しようかなと思います。本当に怖いことです。

上野 中国が怖いのは、原発開発に熱心なことです。それと地震の被害が大きい事です。世界的に見ても桁はずれです。

平田 痛い目に遭わなきゃ気が付かな

い。上海の賑やかさは西安とは比べものになりません。

世界の古都

平田 西安はいわゆる古都です。古都を知るためには西安（長安）に行くことです。西安に行った経験から、お勧めします。

上野 地名も長安にした方が良いでしょう。世界的に知られた名前ですから。

平田 そうですね。西安よりも長安に直した方が世界的に有名になるでしょう。

上野 観光的には長安の方が有利。長安は秦・漢・隋・唐の4代、古代の都だったわけです。匹敵するのは。

平田 ローマ・バグダード・カイロ・イスタンブールあたり。そんな処でしょう。京都も良いと思うけど。中国では西安を奈良と並べていますが、奈良は百年ですからね、京都だったら千年を超えます。

今村？ 玄奘がインドのお経を持ち帰ったお寺も長安にあったのでは？

平田 大雁塔のある大慈恩寺です。

中島？ この辺に青龍寺というお寺があったのでは。青龍刀は有名ですけど。

平田 青龍寺には行きました。広い綺麗な池が印象的でした。西安城外、東南の方向、大雁塔から東北の方向に位置します。

上海

平田 中国東亜航空の宣伝をするわけではありませんが、恐らく、鹿児島—上海—西安の観光ツアーは今後もおこなわれるでしょう。

浜田 中国が宣伝している新幹線は？

平田 新幹線は乗らなかつたけど（笑）。中国は広いので新幹線や車では疲れるでしょう。

中島 上海から西安まで、どれくらい時

間がかかりますか？

平田 上海から国内航空で1時間50分。

中島 そんなに掛かりますか。

平田 東京に行く距離を2回繰り返すのです。鹿児島～上海、上海～西安と。さらに上海で飛行機を待つのが4～5時間あります。また、上海の空港は端から端まで、すごく長い距離を歩かされます。

碑林博物館

平田 西安に碑林博物館というのがあります。五経の一つ「孝経」を、玄宗皇帝が綺麗な字で書いたものが展示室の中央にぐるーっと一回り眺められるように展示されています。文字の国中国では、皆、墨書（筆で書く文字）が上手ですが、玄宗皇帝の文字は綺麗で、びっくりしました。書聖王羲之の書体を集めたものも展示されています。その他に顔真卿や林則徐などの書が見られます。書道をする人にすばらしい場所です。

石碑が多く展示してありますが、どのように利用するのかというと、拓本をとるのを許していたのです。昔は拓本をとって勉強し、科挙の試験を受ける若者たちが多かったそうです。

有名な大秦景教流行中国碑というのも展示されていました。日本では高校世界史の教科書に出て来ます。

仏教と回教

上野 西安にお寺が沢山あるのですか？

平田 そんなに多くはありません。

上野 宗教的には何なのですか？ 儒教は宗教ではないですね。

平田 儒教は宗教ではありません。宗教としては、ラマ教（チベット仏教）や回教（イスラム教）があります。

西安市の人口は800万。城壁内の人口が40～50万人。その中に10万人の大学生がいるとのこと。大学生の数が多し。日本で云えば京都でしょうから、古い都の大学で学ぶということに人気があるのでしょう。

これは、よく写真で見ると大雁塔ですが、登らなかつたのは私だけです（年齢を考へてのこと）。特産物というのは、あまりありません。硯・墨・筆とか玉（白玉）。白玉が東トルキスタン：天山南北路：新疆地方で採れるのです。クチャ・トルファンなどに白玉は集まり、中国ではそれを彫刻し飾り物にしていたのです。

先程、質問があつたのですが、チベット仏教のラマ教が満洲まで広がっています。ラマ教は、満洲では盛んでした。西安にはイスラム教の寺院もありました。清真寺と云っています。また、中国ではイスラム教徒のことを回々（フイフイとかホイホイ）と云います。シルク＝ロードを通過して中国にやつて来ると寂しかつたのでしょうか。トルコ人たちは、いつも回々とか回家（ホイジャー）：帰りたいと口癖だったので回紇（ウイグル）という呼び名が付いたと云います。シルク＝ロードと云うのは此処（長安）から始まつたのですが、ローマや東ローマ、そしてイラン辺りから来た商人は長い旅の末に、早く妻子の元に帰りたかつたのでしょうか。いつも回々とか回家と云っていたので、中国人からそのようにあだ名され、呼び名に定着したそうです。

上野 回教徒の回は何だつたのですか。

平田 トルコ系の回紇が信じていた宗教ということで、回教と呼ばれたのです。私の親父は中国人の部下を集めることが好きで、正月に中国人だけを集めて馳走してい

ました。その中に一人、回教徒がいたので。絶対に豚肉には手を着けませんでした。また豚肉を出すのは失礼に当たると気を遣っていました。

錦州

中島 どこに居られましたか？

平田 錦州という処です。瀋陽と山海関のちょうど中間です。乃木大将の「金州城外立斜陽」の金州とは違います。

中島 錦州爆撃というのがありますが。

平田 それをやつた処です。その爆撃も爆弾を真田紐で縛り、飛行機から落としたと云います。それを錦州爆撃をやつたと日本軍は大宣伝したのです。中国の方も日本軍は卑怯だ、大爆撃をやつたと宣伝したのです。錦州は山に囲まれた盆地で、海にも近く（南の山を越えると渤海湾）、東北にある紫金山の麓に張学良の家もあつた。そして庭続きに飛行場があつたのです。

今日のところは、これで終わります。漢の都の発掘とか秦の都の発掘：阿房宮の発掘とか、将来楽しみだなどと思います。中国の発掘調査は、日本に比べるとスケールが大きいと思ひました。

以上で、旅行報告を終わります。